

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2016 年度在宅医療助成（前期）指定公募  
「地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための多職研修会への助成」  
完了報告書

「地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための多職種研修会」

申請者：安東 恵津子  
所属機関：一般社団法人 宗像薬剤師会  
提出年月日：平成 29 年 8 月 4 日

## 【趣旨】

宗像地区では平成 24 年より宗像医師会を中心に、在宅医療連携拠点事業室「むーみんネット」を開設し医師、歯科医師、薬剤師、看護師、栄養士、介護職員等の多職種協働による在宅医療の支援体制を構築、包括的かつ継続的な在宅医療の提供を実施してきた。それに伴い宗像薬剤師会では平成 25 年宗像薬剤師会在宅支援ネットワーク「宗薬ネット」を立ち上げ、会員薬局に対し、在宅医療の啓蒙・参画促進、サポート実施を継続し、薬剤師の多職種連携において一定の実績を積んできた。

在宅医療において多職種連携は重要である。「協働」、つまり横のつながりを重視することは、全ての職種にとって必要不可欠だが、実情に目を向けるとまだまだ課題は多い。

今般、在宅医療における多職種連携の強化及び体制構築のため、薬剤師会主催で過去の症例を多職種各々の目線で「振り返る」研修会を計画した。各職種の目線で問題点、要望、課題等を抽出し、具体的連携を再確認する事は在宅チームにおける自分の職種が果たすべき役割と連携のあり方を明確にでき、各職種がそれらの共通認識を持つ事は今後の地域包括ケアシステム構築に必須であると考えた。

## 【研修会方法】

第 1 回は有識者による地域包括ケアシステムについての講演、第 2～5 回は医師・薬剤師・看護師・地域包括支援センター管理者をそれぞれ演者とし、過去に携わった在宅患者の事例を提示しながら、グループワークによる症例検討を行った。

10 名前後で 1 グループとし、グループには様々な職種が入るよう振り分けた。グループ討議の結果発表と各職種代表者による意見発表を行い、研修終了後にアンケートを回収した。アンケートは選択欄と意見記述欄を設けた。

## 【研修会内容及び実績】

〈第 1 回〉

日時：平成 28 年 9 月 3 日（土） 15:00～

場所：宗像ユリックス 2 階 会議室 1・2

演題：「地域包括ケアシステムについて」

講師：福岡県立大学看護学部 教授 尾形 由起子 氏

参加者：101 名（薬剤師 44 名・多職種 57 名）

参加職種：医師・薬剤師・看護師・保健師・介護支援専門員・介護福祉士・社会福祉士、施設管理者、市役所高齢者サービス課職員、保健福祉環境事務所職員

〈第2回〉

日時：平成28年11月5日（土） 15:00～

場所：宗像医師会館 3階 講堂

演題：地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための多職種連携研修会  
～医師による事例検討会～

講師：こじまクリニック 院長 小島 武士 氏

座長：吉田内科クリニック 院長 吉田 道弘 氏

参加者：47名（薬剤師28名・多職種19名）

参加職種：医師・薬剤師・看護師・介護支援専門員・介護福祉士・社会福祉士、生活相談員、  
医療ソーシャルワーカー

〈第3回〉

日時：平成29年2月18日（土） 18:00～

場所：宗像ユリックス 2階 会議室1

演題：地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための多職種連携研修会  
～看護師による事例検討会～

講師：宗像医師会訪問看護ステーション 管理者 阿部 久美子 氏

座長：福岡県立大学看護学部 教授 尾形 由起子 氏

参加者：59名（薬剤師23名・多職種36名）

参加職種：医師・薬剤師・看護師・介護支援専門員・介護福祉士・社会福祉士、医療ソーシャルワーカー、理学療法士、デイサービス管理者、訪問介護員

〈第4回〉

日時：平成29年5月20日（土） 15:00～

場所：宗像医師会館 3階 講堂

演題：地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための多職種連携研修会  
～薬剤師による事例検討会～

講師：一般社団法人宗像薬剤師会 理事 馬場 渉 氏

座長：福岡県立大学看護学部 教授 尾形 由起子 氏

参加者：62名（薬剤師26名・多職種36名）

参加職種：医師・薬剤師・看護師・保健師・介護支援専門員・介護福祉士・社会福祉士、地域包括支援センター管理者、作業療法士

〈第5回〉

日時：平成29年7月1日（土） 15:00～

場所：宗像医師会館 3階 講堂

演題：地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための多職種連携研修会  
～地域包括支援センターによる事例検討会～

講師：福津市地域包括支援センター センター長 石出 昌子 氏

座長：福岡県立大学看護学部 教授 尾形 由起子 氏

参加者：83名（薬剤師24名・多職種59名）

参加職種：医師・薬剤師・看護師・保健師・介護支援専門員・介護福祉士・社会福祉士、理学療法士

【アンケート結果】

〈第1回〉

今回の研修内容を理解することができましたか？ (n=88)

よく理解できた	47.7%
まあまあ理解できた	42.0%
あまり理解できなかった	3.4%
理解できなかった	0.0%
無回答	6.8%

今回得られた知識は日常の業務に役に立つと思いますか？ (n=88)

役に立つ	47.7%
まあまあ役に立つ	39.8%
あまり役に立たない	3.4%
役に立たない	0.0%
無回答	9.1%

〈第2～5回〉

地域包括ケアにおける自分の職種のかわり方が理解できましたか？

	第2回 (n=42)	第3回 (n=52)	第4回 (n=56)	第5回 (n=76)	平均
よく理解できた	66.7%	57.7%	64.3%	53.9%	60.6%
まあまあ理解できた	31.0%	38.5%	35.7%	44.7%	37.5%
あまり理解できなかった	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
理解できなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	3.8%	0.0%	1.3%	1.3%

症例検討会に参加することで今後の活動を進める上でどのくらい役立ったと思いますか？

①多職種のスタッフと「意見交換を行う場」として

	第2回 (n=42)	第3回 (n=52)	第4回 (n=56)	第5回 (n=76)	平均
かなり役に立った	81.0%	90.4%	76.8%	72.4%	80.1%
少し役に立った	16.7%	9.6%	23.2%	27.6%	19.3%
あまり役に立たなかった	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
役に立たなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

②「他の職種が抱えている課題を知る場」として

	第2回 (n=42)	第3回 (n=52)	第4回 (n=56)	第5回 (n=76)	平均
かなり役に立った	66.7%	78.8%	66.1%	57.9%	67.4%
少し役に立った	31.0%	21.2%	33.9%	36.8%	30.7%
あまり役に立たなかった	2.4%	0.0%	0.0%	3.9%	1.6%
役に立たなかった	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.3%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

③「自分たちの職種が果たすべき役割を確認する場」として

	第2回 (n=42)	第3回 (n=52)	第4回 (n=56)	第5回 (n=76)	平均
かなり役に立った	66.7%	71.2%	73.2%	57.9%	67.2%
少し役に立った	31.0%	28.8%	26.8%	39.5%	31.5%
あまり役に立たなかった	2.4%	0.0%	0.0%	2.6%	1.3%
役に立たなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

④この研修会を今後の多職種連携に活用することができると思いますか？

	第2回 (n=42)	第3回 (n=52)	第4回 (n=56)	第5回 (n=76)	平均
かなり活用できる	78.6%	75.0%	69.6%	67.1%	72.6%
少しは活用できる	21.4%	25.0%	30.4%	31.6%	27.1%
あまり活用できない	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.3%
活用できない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

日常業務において連携が取れている、または取りやすいと感じている職種を以下から選んでください。(複数選択可)

〈第1回〉

回答者 選択肢	医師	薬剤師	看護師	CM	介護福祉士	その他	計
医師	2	22	3	2	2	2	33
歯科医師	2	1	1	4	1	2	11
薬剤師	2	12	5	5	1	0	25
看護師	1	18	6	9	7	6	47
介護支援専門員	1	8	7	7	11	9	43
介護福祉士	0	2	3	8	7	7	27
その他	0	1	1	5	1	1	9

〈第5回〉

回答者 選択肢	医師	薬剤師	看護師	CM	介護福祉士	その他	計
医師	1	11	4	8	0	2	26
歯科医師	0	0	0	3	0	0	3
薬剤師	2	4	3	9	0	1	19
看護師	2	6	5	21	3	4	41
ソーシャルワーカー	1	0	4	24	1	6	36
介護支援専門員	2	8	8	14	4	8	44
介護福祉士	0	3	4	21	2	2	32
その他	0	0	0	2	0	1	3

日常業務において連携が取れていない、または取りづらいと感じている職種を以下から選んでください。(複数選択可)

〈第1回〉

回答者 選択肢	医師	薬剤師	看護師	CM	介護福祉士	その他	計
医師	0	6	4	15	8	9	42
歯科医師	0	11	3	2	7	6	29
薬剤師	0	1	2	4	6	6	19
看護師	0	5	0	4	2	0	11
介護支援専門員	1	11	1	1	0	0	14
介護福祉士	0	16	1	2	0	0	19
その他	1	3	0	1	2	2	9

〈第5回〉

回答者 選択肢	医師	薬剤師	看護師	CM	介護福祉士	その他	計
医師	0	1	5	22	3	3	34
歯科医師	2	4	6	18	2	4	36
薬剤師	0	0	5	5	2	3	15
看護師	0	1	0	3	1	0	5
ソーシャルワーカー	1	7	3	3	2	2	18
介護支援専門員	0	2	1	1	0	0	4
介護福祉士	2	4	1	1	0	1	9
その他	0	0	0	0	0	0	0

【研修会風景】



## 【感想】

今回、宗像薬剤師会では「振り返る」研修会を企画し、それぞれの職種が携わった症例を多職種で検討した。

最初に地域包括ケアに明るい福岡県立大学看護学部教授・尾形由起子氏に実体験を交えて講演をいただき、参加者は、患者・利用者が住み慣れたところで暮らすには様々な職種が連携して支える必要があることへの理解を深めたに違いない。

第2回のこじまクリニック院長・小島武士氏の提供事例は在宅療養にあたって問題点の多い患者さんを多職種での数十回に及ぶ担当者会議と成年後見制度の利用によって看取りまで行った症例であった。当時、抱えていた問題点について2度のグループワークを行い、実際にはどう対処されたかお話を伺った。どのグループも成年後見制度の利用やその他の対応について共通する意見が出ていたことは、多職種が連携して係わることが患者・利用者の満足に繋がることを認識でき印象深かった。実際にこの症例で係わった司法書士の話聞くこともでき、貴重な機会となった。

第3回の宗像医師会訪問看護ステーション管理者・阿部久美子氏からは、我々薬剤師との連携について考える症例を提供いただいた。3回のグループワークを行い、薬剤師への不満・問題点を挙げるとともに薬剤師に期待する言葉もいただき、身の引き締まる思いであった。

第4回では在宅医療の経験豊富な宗像薬剤師会理事・馬場渉氏から、多職種と連携・協働することで薬剤師がここまでやれるのだ、という事例を提供していただいた。この症例は昨今、耳にする機会が増えた「残薬」や「ポリファーマシー」の問題を、薬剤師が係わることで患者さんのアドヒアランスを向上させるとともに、多職種連携でその解消につなげ、薬剤師が訪問時に血圧、脈拍、SPO<sub>2</sub>などのバイタルサインを確認し、医師に報告することで減薬にも至ったものであった。2回のグループワークでは問題点を抽出し、それぞれの職種が何をすべきか認識することに繋がったと思う。薬剤師との連携を望む声も聞くことができた。

第5回は福津市地域包括支援センター センター長・石出昌子氏より、地域包括支援センターの役割を詳しく紹介いただき、ご自身が奔走された症例を通して、様々な専門職種だけでなく、地域住民の協力によって必要な情報を得て、患者・利用者を支えるという、実際の地域包括ケアをのぞかせてもらった。ここでも2度のグループワークで、自分の職種の目線だけではなく、他職種のいろいろな目線が解決に導くことを体感した。

## 【結果及び考察】

約1年に渡り全5回の研修会を行った。毎回、土曜日の午後の開催であったが、延べ352名の出席者があった。参加職種は医師、薬剤師、看護師、保健師、介護支援専門員、介護福祉士、社会福祉士、医療ソーシャルワーカー、生活相談員、デイサービス管理者、理学療法士、作業療法士、市役所高齢サービス課職員、保健福祉環境事務所職員など多岐にわたる。



また、グループワーク、スモールグループディスカッション (SGD) は敬遠されがちではあるが、これだけの人数及び職種に参加を得られたということは、在宅医療・在宅介護に係わっている者は多職種連携について関心度が高く、かつ、必要性・重要性を感じているのだと言えるだろう。

各回のアンケートによれば、今回の研修会の満足度は非常に高い。特に「多職種と意見交換をする場として役に立った」とする意見が多く、「今後の連携に活用できると思う」との評価が多かった。意見記述欄でも「顔が見える関係」ができたことや、顔なじみになれたこと、多職種から自分とは違う視点での意見を聞くことができたことを評価する意見が多くあり、このような SGD 形式の研修会は多職種連携のハードルを下げる一助になるものと思われる。他職種が抱える問題点や自分（の職種）の係わり方・役割を知る場として評価されていることも併せると、どの職種も多職種連携の重要性を理解しており、その機会を欲しているのだとも言えるだろう。

また、第 1 回と第 5 回のアンケートではどの職種と連携しやすいか、または連携しづらいかを問うた。看護師、介護支援専門員とはどの職種も連携しやすい、できているとの意見が多く、やはり在宅医療・在宅介護においてこの 2 職種は要であると思われる。また、医師・歯科医師・薬剤師の医療系職種と介護支援専門員や介護福祉士などの介護系職種とはお互いに連携しづらい・できていないとしており、連携が不十分であることが示唆された。

#### 【まとめ】

この研修会を通して、患者・利用者が住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくためには、それに係わる専門職は視点を生活に向け、その方が生活を送る上での問題点や注意点を多職種と共有し、連携しなければならないということを痛感した。「視点を生活に向けて連携する」とは、例えば、薬剤師なら薬の専門家として薬剤が個々の患者に及ぼす影響を、生活に則した内容で他の職種に情報提供するということになるだろう。

自分の職種の役割を認識し、多職種との連携を深めるためには、今後も多職種での事例検討を行う研修会は必須であるし、専門知識を生活に結び付けることを意識した研修も必要であると考えられる。

この研修会は公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団による助成を受け実施した。